



①ユジノサハリンスク市内のショッピングセンターで開催された道北物産展



①北海道ジュニアレスリング大会に出場した、ユジノサハリンスク市の小学生



①茶道体験をするユジノサハリンスク市の青少年

かつての「樺太」時代の日本の建物が一部残り、どこか懐かしさを感じさせるユジノサハリンスク市の街並み。友好都市提携は昭和42年で、サハリン州のまちとの提携は国内初でした。当初は公式訪問による相互訪問が主でしたが、近年は大学生の交流やスキー・サッカー・レスリングの青少年スポーツ交流、経済交流など、幅広い分野での交流を行っています。中でも、平成25年からユジノサハリンスク市で開催している道北物産展は、安心できる商品が好評で、同市の公設市場の機能を持つ農業パーク開設に向けた技術協力の協定も結ぶなど、実り多いものとなっています。時間をかけて築いてきた信頼関係を基盤に、急速に経済成長が進むユジノサハリンスク市と、より活発な経済や文化の交流が進むことが期待されます。

ロシアの文化を伝えたい
国際交流員のセメノヴァ・マリアさんは、ロシア・サンクトペテルブルグ市の大学を卒業後、旭川に赴任。物産展の通訳として、ユジノサハリンスク市に同行しました。ロシアとしては珍しく山があり、気候や植生が旭川に似た同市を初めて訪れ、「同じロシアでも、サンクトペテルブルグとは違うイメージのまちでした」と話します。現地では早々に売り切れた品も多く、「道北の物産への関心が高く、今後、さらに経済交流が進むと実感しました」と話すマリアさん。同時に、「国土が広く、様々な民族が住んでいるロシアの暮らしか文化を、旭川の人にもっと知ってほしい」との思いから、ロシア料理や風習を伝える講座で積極的に講師を務めています。



①ユジノサハリンスク市内の「旭川通り」。「旭川公園」もある



②国際交流員のセメノヴァ・マリアさん



ロシア

〈友好都市〉
ユジノサハリンスク市

築き上げてきた信頼関係で 人の交流から経済交流へ

まちの概要

ロシア連邦サハリン州の州都で人口は約19万9千人。1905～1946年の日本統治時代は「豊原」と呼ばれていた。近年、天然ガス開発プロジェクトにより経済成長が目覚ましい

